シェフ三潴の“時事中国語調理の秘訣”

ご覧いただく諸先生に対しては僭越ですが、これまで私が時事中国語を教える時に自分なりに気がついたこと、その説明などを忌憚無く開陳し、ご参考に供したいと思います。

私が時事中国語に関心を持ったのは、自分が学生の時、授業で会話体の中国語と新聞など論説体の中国語について、文法・語彙の違いといった説明が何もないままに教えられ、どう区別して使えばよいか、大変困った事がきっかけになっています。そして、英語には時事英語というれっきとしたジャンルがあるのに、どうして中国語にはそれが欠けているのだろう、とも考えました。

その後、ある時思い立って、個別の語彙が、辞書における話し言葉・書き言葉・書面語・文語などといった引き出しにどう仕分けされているか、主な辞書の分類を見て片っ端から比較してみましたが、その結果、各辞書が実にまちまちである事がわかりました。これは現在に至るも解決されていません。

前置きはこれくらいにして、まず、第一のポイントを申し上げます。それは“**的**”の省略です。

限定語を導く構造助詞“**的**”の省略は、話し言葉ではかなりハッキリした制約が有り、文法書でも「親族関係や所属単位を示す時は省略可」などといった記述が有ります。しかし、論説体では、文の格式・リズムといった要請から、“**的**”はかなり恣意的に省略されます。私がよく挙げる例ですが“**邓小平建设有中国特色社会主义理论**”（中国の特色を備えた社会主義を建設するという鄧小平の理論）を“**邓小平的建设有中国的特色的社会主义的理论**”とは言いません。勿論、話し言葉でもこれほどの“**的**”の洪水は避けますし、“～**理论**”“～**方案**”といった場合には“**理论**”“**方案**”等の前には“**的**”を入れないのが普通のようですが。また、感覚的な物言いですが、大体 10 数文字前後の範囲では“**的**”は最も必要度の高いものを一つだけ残す、というのが許容限度のようです。

2006 © 著者：三潴正道 ㈱朝日出版社